

Accuphase

MDS SUPER AUDIO CD PLAYER



MDS SA-CDプレーヤー

DP-560

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

DP-560の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内)にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは33ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

付属品をご確認ください

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| ●取扱説明書(本書)..... 1冊 | ●単3乾電池 2個 |
| ●安全上のご注意..... 1冊 | ●AC電源コード(2m) 1本 |
| ●お客様情報の取扱いについて..... 1枚 | ●プラグ付オーディオケーブル(1m)(AL-10)..... 1本 |
| ●お客様カード(保証書発行はがき) 1枚 | ●USBユーティリティ2 CD 1枚 |
| ●目隠しシール 1枚 | ●USBユーティリティ2・セットアップガイド 1冊 |
| ●リモート・コマンダー RC-120 1個 | |

目次

付属品をご確認ください……………表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください……………2

- ▲警告……………2
- お使いになる前に……………2
- ▲注意／使用上の注意／お手入れ……………3
- 接続上の注意……………4
- DP-560の録音について……………4
- 本機で再生できないディスク……………4
- 本機で再生できるディスク……………5
- HS-LINK Ver.2について……………5

2. 各部の名前……………6

- フロントパネル、リアパネル……………6

3. 各部の動作説明……………7～15

- 1 POWER—電源スイッチ……………7
- 2 SA-CD/CD ボタン……………7
- 3 INPUT—入力切替ボタン……………7
- 4 ディスクトレイ……………7
- 5 ▲ OPEN/CLOSE ボタン……………8
- 6 ▶ PLAY (演奏) ボタン……………8
- 7 || PAUSE (一時停止) ボタン……………9
- 8 ◀◀ BACK / NEXT ▶▶—トラックサーチボタン……………9
- 9 ■ STOP (停止) ボタン……………9
- 10 リモート・センサー……………9
- 11 ディ스플레이部……………9
- 12 DIGITAL INPUTS—デジタル入力端子……………10
- 13 ANALOG OUTPUTS—アナログ出力端子……………10
- 14 TRANSPORT OUTPUTS—トランスポート出力端子……………11
- 15 BALANCED CONNECTION—
バランス出力端子の極性切替スイッチ……………11
- 16 AC電源コネクター……………11

リモート・コマンダー RC-120(付属)の機能

- 17 INPUT ボタン—入力セレクター……………12
- 18 LEVEL (+) (-) ボタン—出力レベル調整……………12
- 19 選曲ボタン……………12
- 20 TIME ボタン—タイム・モード切替……………12
- 21 リピート(繰り返し演奏)ボタン……………13
- 22 TRACK ボタン……………13
- 23 VOLUME ボタン—音量調整……………13

4. 接続図……………14

5. リモート・コントロール……………15

6. ご使用方法……………16～27

- 演奏の基本操作……………16
- 機能設定: セッティング・モード
 - HS-LINKの切替 (Ver.1, Ver.2)……………17
 - 電源ON時のプレイ動作……………17
 - 自動ポーズの時間……………17
 - 変更した機能を初期設定に戻す……………17

ディスプレイ部の表示例

- ディスクを入れて、▲ OPEN/CLOSE ボタンを押したとき……………18
- プレイ(演奏)中のディスプレイ……………18
- ストップ(停止)状態でのディスプレイ……………18
- サンプリング周波数の表示例……………19

いろいろな演奏方法

- 途中で演奏を中止するには……………20
- 演奏を直ちに開始しないとき……………20
- トラック(曲)を指定して演奏……………20
- トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す……………21

リピート(繰り返し)演奏

- ディスク全曲の繰り返し演奏: 全曲リピート……………21
- 1曲の繰り返し演奏: 1曲リピート……………21

データディスクの演奏

- 再生できるファイルの仕様……………22
- 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数……………22
- ファイルの再生順番について……………22,23
- 再生について……………23
- 表示について……………23
- DSDディスク……………23

外部機器でデジタル・プロセッサーを使用する場合

- デジタル信号を入力して演奏する場合……………24
- デジタルレコーダーで録音・再生をする場合……………25

DG-58との接続例

- DG-58をデジタルで接続……………26
- DG-58をアナログで接続する場合……………27

7. 他機種との接続で使用するケーブル……………28

- HS-LINKケーブル(1.5m)……………28

8. 保証特性……………29

9. 特性グラフ……………30

10. ブロック・ダイアグラム……………31

11. 故障かな?と思われるときは……………32

12. アフターサービスについて……………33

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロール

ご使用方法

他機種との接続で
使用するケーブル

保証特性

特性グラフ

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V (50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

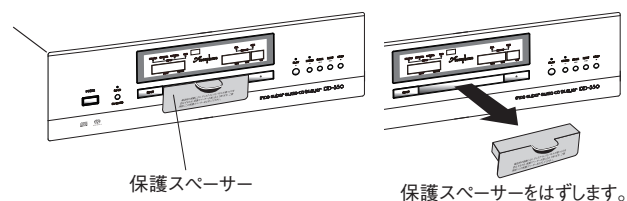
* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

お使いになる前に

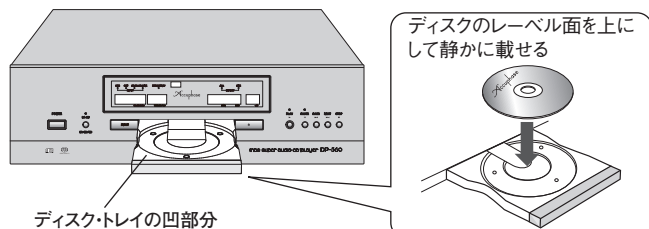
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



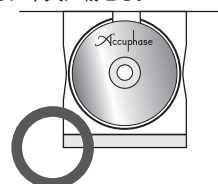
※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、はずした保護スペーサーは保存しておいてください。

ディスクがはみ出さないことを確認してトレイを閉じます

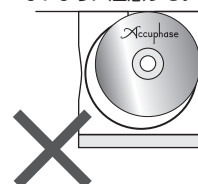
ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に押しつけず静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。



トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。

注意

◆ディスク・トレイが閉まるとき、挿入口に指を挟み込まれないように注意する。

- 挟み込まれると、けがや故障の原因となります。
- 万一異物が挟まると、トレイを閉める力が弱まり、約5秒後に自動的にトレイが開きます。

■設置場所について

必ず水平な場所に設置する。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避ける。

チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■市販のレンズクリーナーについて

本機は埃が入り難い構造となっていますので、レンズクリーナーの使用はお勧めしておりません。

■レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

■入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行なう。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(一)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れない。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■音量の調整について

SA-CDは、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。音が出ていないときでも、不用意に音量を上げると、ノイズが出たり、思わぬ大音量が出て、アンプやスピーカーを破損する場合があります。

演奏を始める前は、大音量にならないように必ず音量を小さくしておいてください。

■HS-LINKケーブルの接続

HS-LINKの接続は、HS-LINKを装備しているオーディオ機器にHS-LINKケーブルで入力してください。

- 必ず(当社別売または付属している機種(の付属品)のHS-LINKケーブル)を使用してください。
- 誤ってコンピューターのLAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

使用上のご注意

■CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

- コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
- CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

■光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいますが、CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストープなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

■CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理がされているディスク

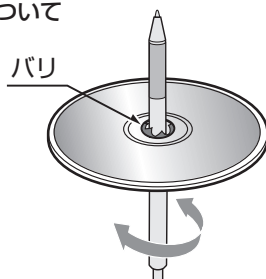
本体内部に貼り付き、取出しができなくなる事がありますのでご注意ください。

■ディスクにラベルなどを貼らないでください。

故障の原因になります。

■バリの残っているディスクの再生について

ディスクのセンターホールにはバリ(右図参照)が残っていることがあります。このようなディスクは再生しなかったり、音飛びが起きたりする場合がありますので、バ리를細い棒状のもの(プラスチック製のボールペンなど)で取り除いてから再生してください。



結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

～ディスクの取り扱いについて～

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿のところに置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには「柔らかい布」を使用してください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

接続上の注意

DP-560は一体型SA-CD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とプロセッサ部を分離することができ、それぞれを単独で使用できる入出力端子を装備しています。

■DP-560をSA-CD/CDトランスポートとして使用する場合

……『TRANSPORT OUTPUTS』端子から出力。

- デジタル・プロセッサDC-37、DG-58、DC-950等と接続します。

(25, 26ページ)

HS-LINK Ver.1、Ver.2の切替えが必要です。(17ページ)

- CD信号のデジタル録音用として、デジタル・レコーダーと接続します。(25ページ)

メモ

HS-LINK端子からは、SA-CD/CDのデジタル信号が出力されます。また、COAXIAL/OPTICAL端子からは、CDのデジタル信号のみ出力されます。

■DP-560のデジタル・プロセッサ部を使用する場合

……『DIGITAL INPUTS』端子に外部信号を入力。

- トランスポート DP-950等の外部デジタル機器を接続します。(24ページ)
- デジタル・レコーダーの再生用として使用します。(25ページ)

■DP-560とDG-58の組み合わせ

- デジタル接続の場合 …… 26ページ
- アナログ接続の場合 …… 27ページ

DP-560の録音について

SA-CDのデジタル録音

著作権保護のため、SA-CDのデジタル録音はできません。

SA-CDのアナログ録音

DP-560をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプまたはプリメインアンプのREC端子から録音します。

CDのデジタル録音

『TRANSPORT OUTPUTS』端子のCOAXIAL/OPTICAL端子とデジタル・レコーダーを接続します。(25ページ)

- * HS-LINKからのCDデジタル信号は録音できません。
- * デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピーマネージメント・システム)により第1世代だけになります。

メモ

入力切替ボタンでプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのままCD録音が可能です。

CDのアナログ録音

DP-560をアナログ・プリアンプまたはプリメインアンプに接続後、アンプのREC端子から録音します。

本機で再生できないディスク

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- dts-CD
- MP-3
- Blu-ray

* 誤って使用するとノイズを発生する場合があります。

* CD EXTRA, CD-R/-RW, DVD-R/-RW/+R/+RWなどは録音・記録状態によっては正常な動作をしないときがあります。

注意

■マルチチャンネルSA-CD(SA-CD-Multi)について

- 「2チャンネル+マルチチャンネル」ディスクの場合、2チャンネル・エリアは再生できますが、マルチチャンネル・エリアは再生できません。
- 2チャンネル・エリアがない、「マルチチャンネルのみのSA-CD」(規格外ディスク)が存在します。このディスクは再生できません。

本機で再生できるディスク

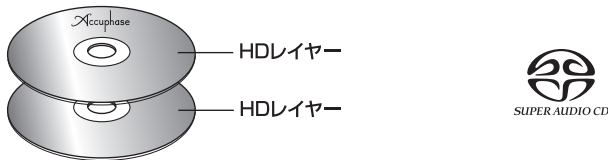
■本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生については、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

SA-CD : シングルレイヤー・ディスク



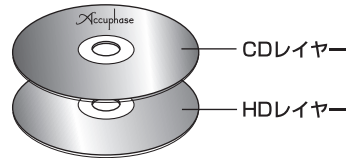
- HD (ハイデンシティ) レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

SA-CD : デュアルレイヤー・ディスク



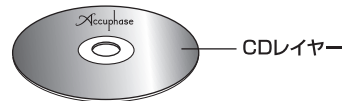
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SA-CD+CD : ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- ディスク挿入後、HDレイヤーが優先的に選択されます。CDレイヤーを再生する時は、SA-CD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



- 従来フォーマットのCDです。



データディスク (DSDディスク) 22, 23ページ参照



HS-LINK Ver.2について

HS-LINK Ver.2はサンプリング周波数と量子化ビット数を大幅に拡張し、5.6448MHz/1bit 2ch DSDおよび352.8kHz、384kHz/32bit 2ch PCMに対応したHS-LINKの上位規格です。

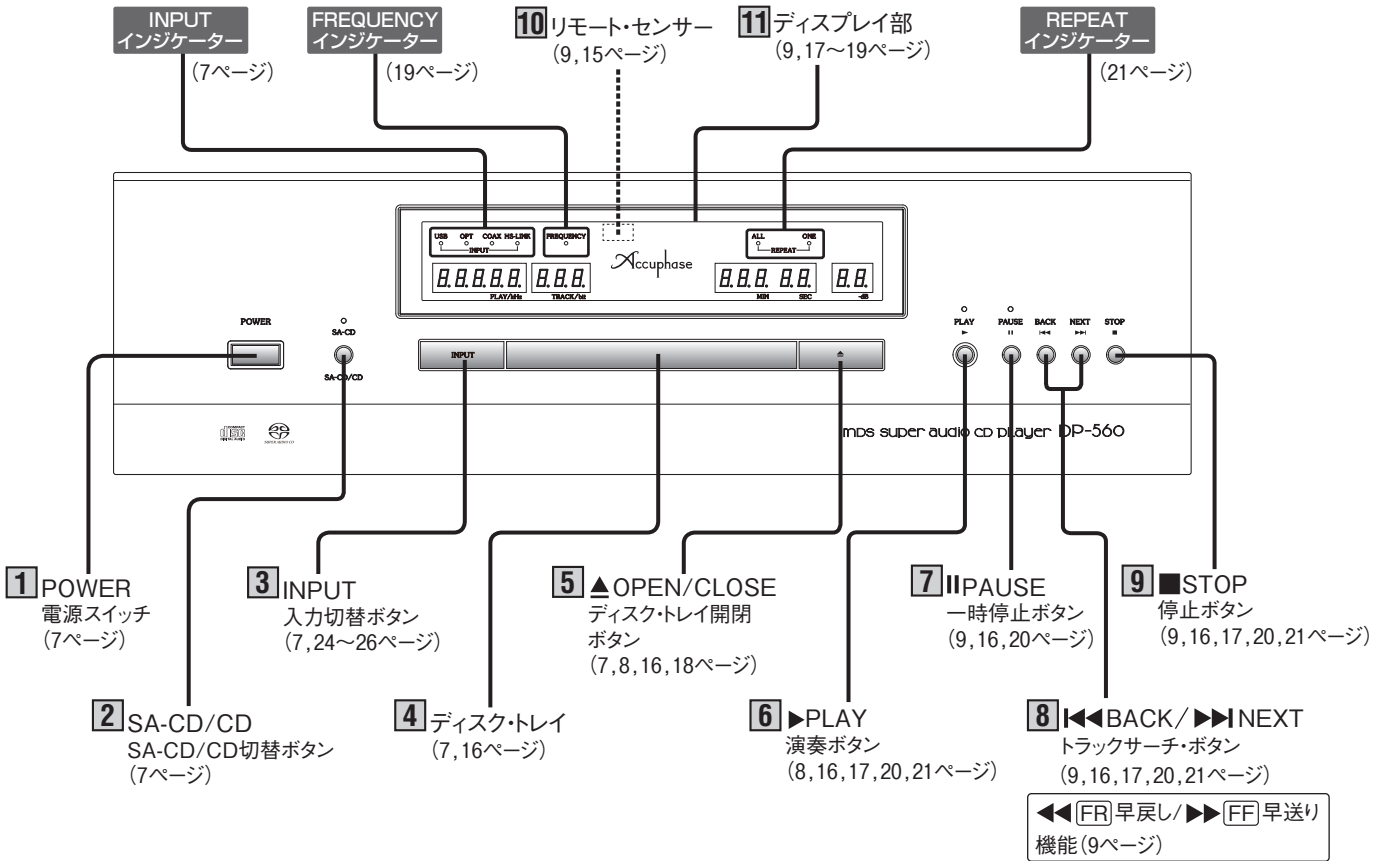
- DP-950、DC-950、DP-560、DC-37はHS-LINK Ver.2対応のため、HS-LINK (Ver.1)、HS-LINK Ver.2 両信号に対応しています。
- HS-LINK (Ver.1)およびHS-LINK Ver.2はHS-LINKケーブルで再生可能です。

	HS-LINK (Ver.1)	HS-LINK Ver.2
サンプリング周波数/ビット数	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、 176.4kHz、192kHz/ 16~24bit 2ch PCM 2.8224MHz/1bit 2ch DSD	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、 176.4kHz、192kHz、352.8kHz、384kHz/ 16~32bit 2ch PCM 2.8224MHz、5.6448MHz/1bit 2ch DSD

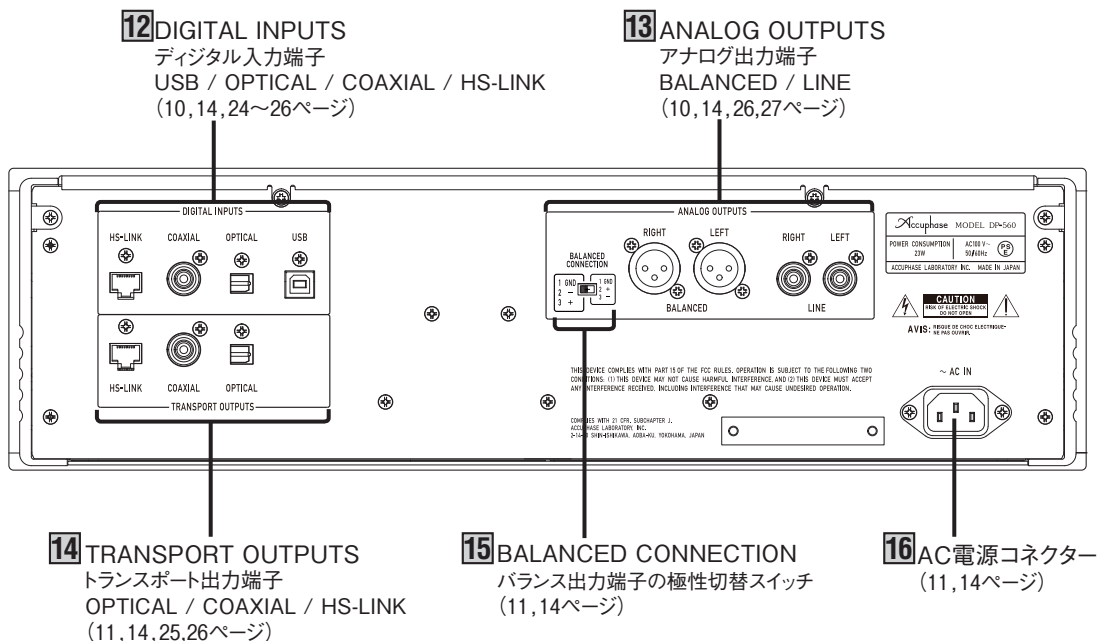
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



3. 各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ

電源を入れる

スイッチを押すと電源が入ります。**スイッチ**：

- 電源を入れると左ディスプレイの数字が点滅し約10秒間内部のセットアップのため、キー操作やリモコン操作はできません。

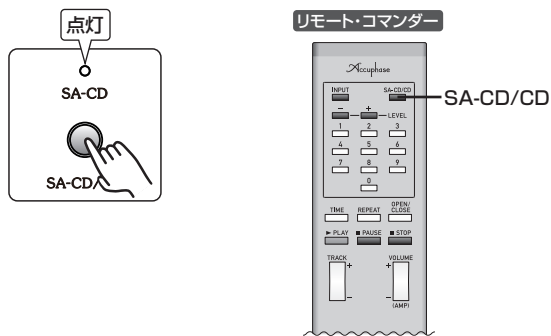


電源を切る

再びスイッチを押すと電源が切れます。**スイッチ**：

- 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 SA-CD/CD ボタン



ハイブリッド・ディスクの演奏中に、SA-CDかCDの選択ができます。押すたびに、《SA-CD》と《CD》が切り替わり、《SA-CD》を選択するとLEDが点灯します。

ハイブリッド・ディスク

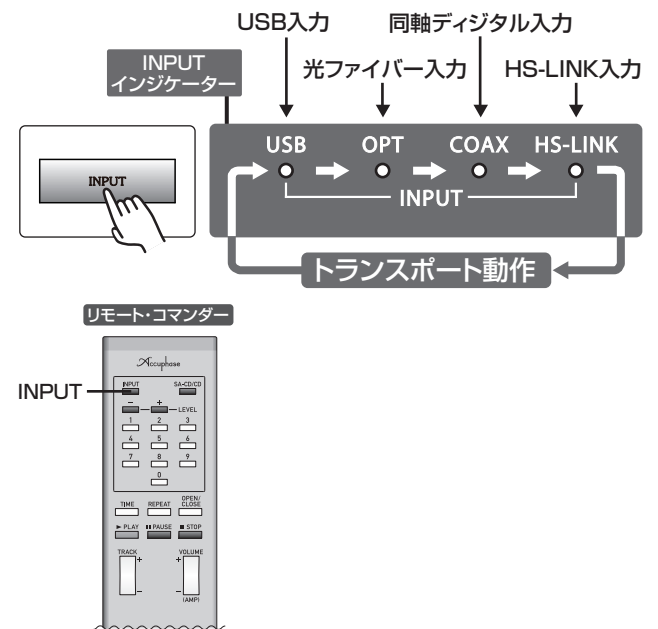
- ハイブリッド・ディスクを入れると、SA-CDを優先して選択（演奏）します。（LED点灯）
- CDを選択するときはボタンを押します。（LED消灯）
- 演奏中またはPAUSE中に切り替えると、SA-CD/CD切替え後の曲の頭から再生します。
- TOCの読み込み中は、切り替えができません。

SA-CD専用ディスク

- SA-CDを入れると、SA-CDを自動的に選択（演奏）します。（LED点灯）
- 演奏中にこのボタンを押すと演奏を止めて、STOP状態になります。

3 INPUT — 入力切替ボタン (24~26ページ)

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。



押すたびに、プロセッサ部への入力信号が切り替わります。ディスプレイ部のLED点灯で確認します。ただし、ロックアウト中は点滅します。LEDが全て消灯しているときは、TRANSPORT動作になります。

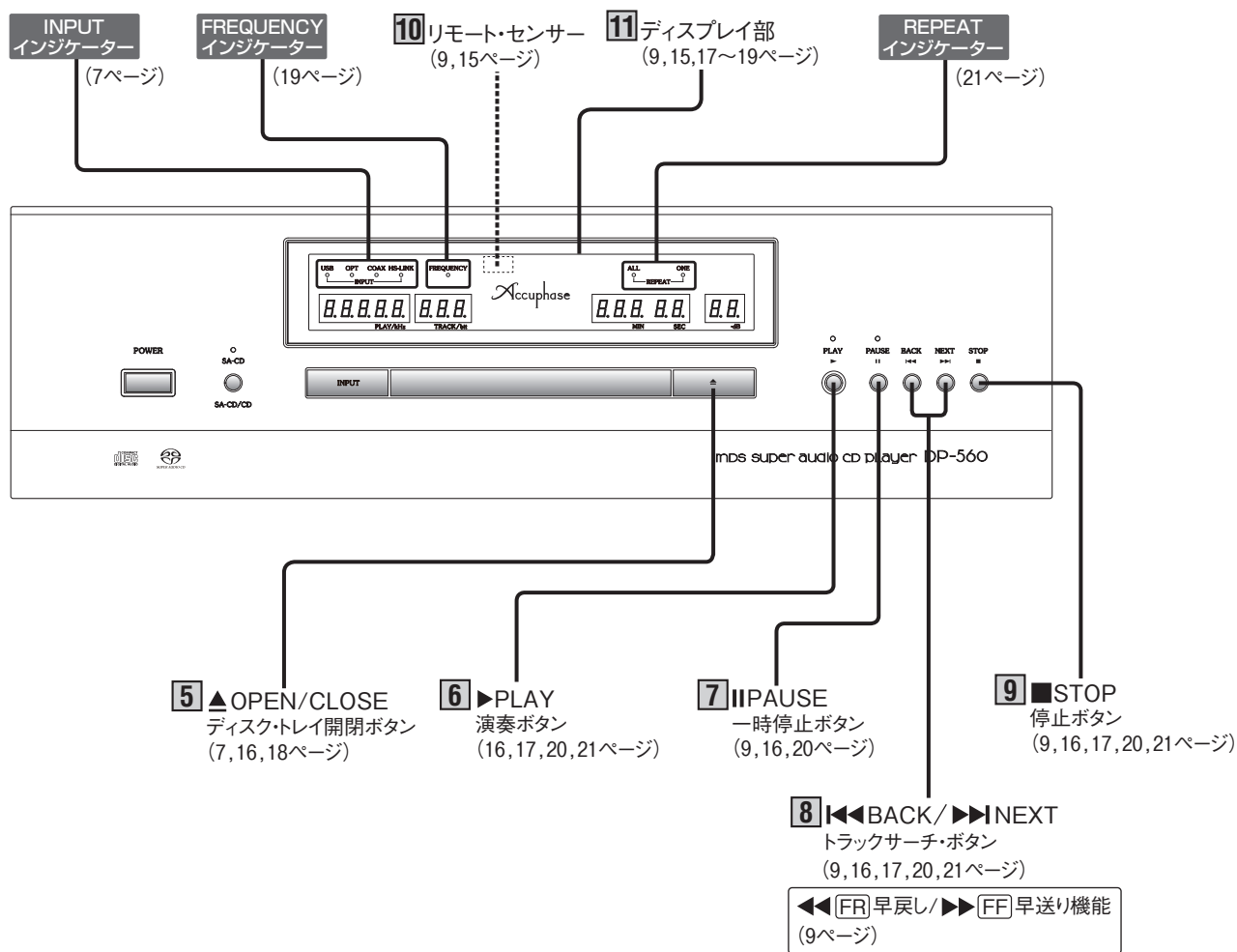
- * 本機のSA-CD/CDトランスポート演奏中にプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のSA-CD/CDトランスポート動作は継続します。但しボタンを切り替えて、外部機器が接続されていないときや入力信号をロックインしないときは、アナログ出力が途切れます。

4 ディスク・トレイ (16ページ)

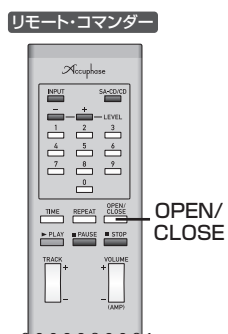
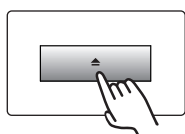
OPENする時 ● **5** ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押すと手前に出てきます。

- CLOSEする時** ● **5** ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンをもう一度押します。
- ディスク・トレイ前面を軽く押します。
* ディスクがある場合、自動的に演奏を開始します。
 - **6** ▶ **PLAY** ボタンを押すと閉じ、ディスクがある場合は演奏を開始します。

フロントパネル(前面)

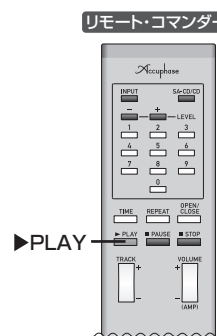
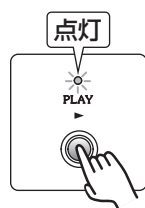


5 ▲ OPEN/CLOSE ボタン (16, 18ページ)



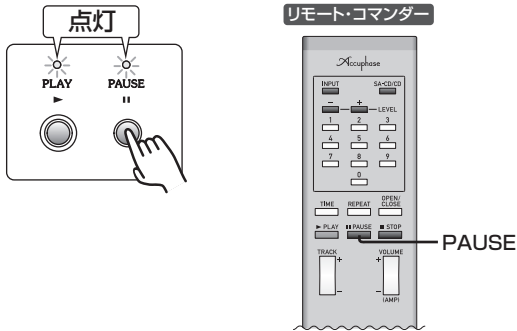
- OPENする時** 押しとディスク・トレイが出てきます。
- CLOSEする時** もう一度押しとトレイが閉じます。

6 ▶ PLAY (演奏) ボタン (16, 17, 20, 21ページ)



- 押しとLEDが点灯し演奏を開始します。
- PAUSE (一時停止) から演奏を再開するときにも押します。

7 PAUSE (一時停止) ボタン (16,20ページ)

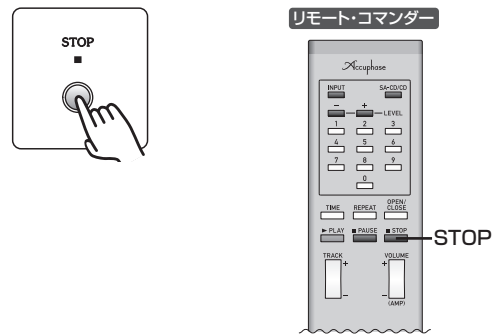


PLAY中 押すと演奏を一時停止します。
PAUSE(一時停止)中に押すと演奏を再開します。

0.5秒以上押し続けると

◀◀ **FR** (早戻し) / ▶▶ **FF** (早送り) 動作となります。

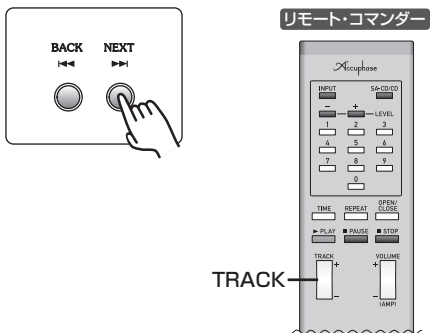
9 STOP (停止) ボタン (16, 17, 20, 21ページ)



PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

再度 **6** ▶ **PLAY** ボタンを押しても、停止したところからの演奏はできません。

8 ◀◀ BACK / ▶▶ NEXT — トラックサーチ・ボタン (16, 17, 20, 21ページ)



◀◀ **BACK** トラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとそのトラックの頭に戻ります。続けて押すと順次、前のトラックの先頭へ飛びます。

▶▶ **NEXT** トラックサーチ・ボタン

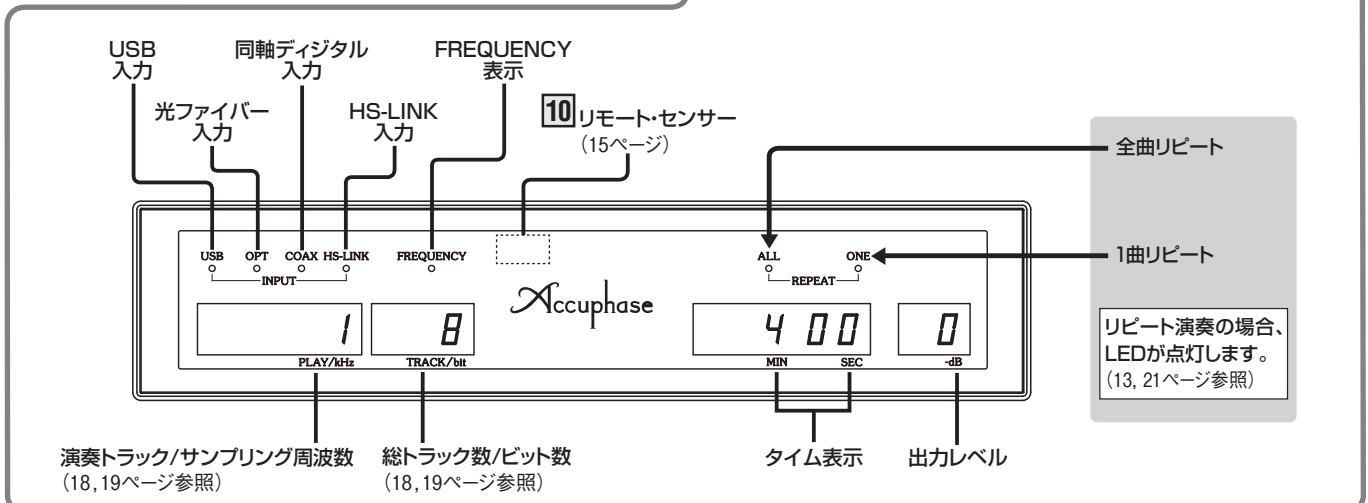
1回押すと次のトラックの先頭へ飛びます。続けて押すと順次、次のトラックの先頭へ飛びます。

10 リモート・センサー (15ページ)

リモート・コマンダー RC-120の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここにしてください。

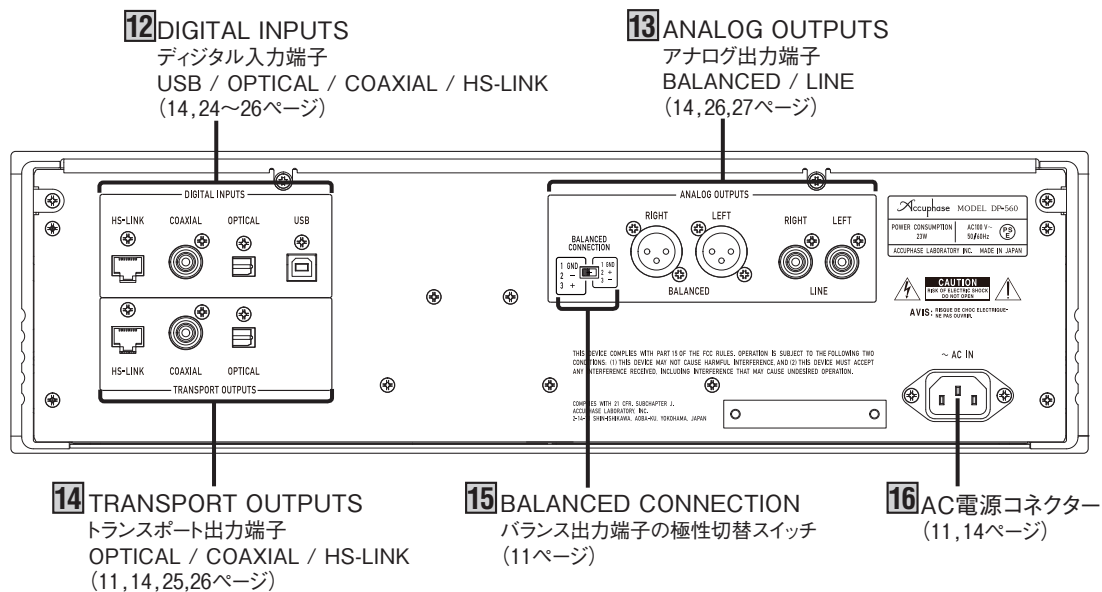
11 ディスプレイ部 (17~19ページ)

さまざまな情報を表示します。



各部の
動作説明

リアパネル(後面)



12 DIGITAL INPUTS — デジタル入力端子 (14, 24, 25ページ)

デジタル信号を各種接続ケーブルで入力することができます。

- **HS-LINK** …………… HS-LINKケーブル
(*HS-LINK Ver.2のみ対応) 5ページ参照
32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz, *352.8kHz, *384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz, *5.6448MHz (1bit 2ch DSD)
- **COAXIAL** …………… 75Ω同軸デジタルケーブル
32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz (各16~24bit 2ch PCM)
- **OPTICAL** …………… 光ファイバー
32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)
- **USB** …………… USBタイプBコネクタ付ケーブル
32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz, 352.8kHz, 384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz, 5.6448MHz, 11.2896MHz (1bit 2ch DSD)
(11.2896MHz : ASIOのみ)
- **USB端子を使用するにはPCにUSBドライバソフトをインストールする必要があります。**
詳細は別紙のUSBユーティリティ2・セットアップガイドをご覧ください。

13 ANALOG OUTPUTS — アナログ出力端子 (14, 26, 27ページ)

アナログ出力は、プリアンプやプリメインアンプの入力端子と接続します。

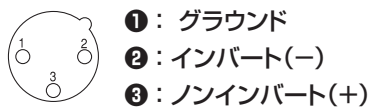
LINE(アンバランス)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオケーブルで接続します。

BALANCED (バランス)コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクタです。アンプの入力コネクタがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、次のようになっています。



14 TRANSPORT OUTPUTS — トランスポート出力端子 (14, 25, 26ページ)

本機のSA-CD/CDトランスポート部のデジタル出力端子です。

HS-LINK (RJ-45) : SA-CD/CDデジタル出力端子

HS-LINKを装備しているデジタル・プロセッサ等と、付属のHS-LINKケーブルで接続します。

SA-CDとCD信号の両方を伝送でき、SA-CD/CDボタンで選択したデジタル信号を出力します。

出力フォーマットは接続機に応じてHS-LINK Ver.1, Ver.2を選ぶことができます。

切替方法は17ページ参照、HS-LINK Ver.2については5ページ参照

COAXIAL (同軸) : CD専用デジタル出力端子

CD専用の同軸デジタル出力端子です。

75Ω同軸ケーブルでデジタル・プロセッサ等と接続します。

OPTICAL (光ファイバー) : CD専用光ファイバー・デジタル出力端子

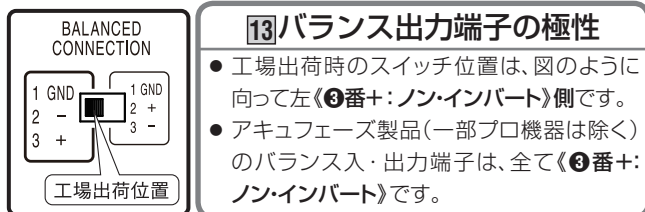
CD専用の光ファイバー・デジタル出力端子です。光ファイバーでデジタル・プロセッサ等と接続します。

注意

- SA-CDデジタル信号は、トランスポート端子のHS-LINKのみから出力され、COAXIAL/OPTICAL端子からは出力されません。
- 入力セレクターでプロセッサ動作に切り替えても本機のトランスポート動作は継続しますから、CD録音はそのまま可能です。

15 BALANCED CONNECTION — バランス出力端子の極性切替スイッチ

バランスでプリアンプやプリメインアンプに接続する場合、プリアンプやプリメインアンプ側の入力端子と②番/③番の極性が同じになるように⑬バランス出力端子の極性を切り替えるスイッチです。



⑬ バランス出力端子の極性

- 工場出荷時のスイッチ位置は、図のように向って左(②番+ : ノン・インパート)側です。
- アクフェーズ製品(一部プロ機器は除く)のバランス入・出力端子は、全て《②番+ : ノン・インパート》です。

接続するプリアンプやプリメインアンプのバランス入力端子が、《②番+ : ノン・インパート》の場合のみ、スイッチを切り替えてください。

スイッチを切り替えると、バランス出力端子②番と③番の極性は、次のように変わります。

<p>①番 GND : グラウンド ②番 - : インパート ③番 + : ノン・インパート</p>	↔	<p>①番 GND : グラウンド ②番 + : ノン・インパート ③番 - : インパート</p>
--	---	--

16 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

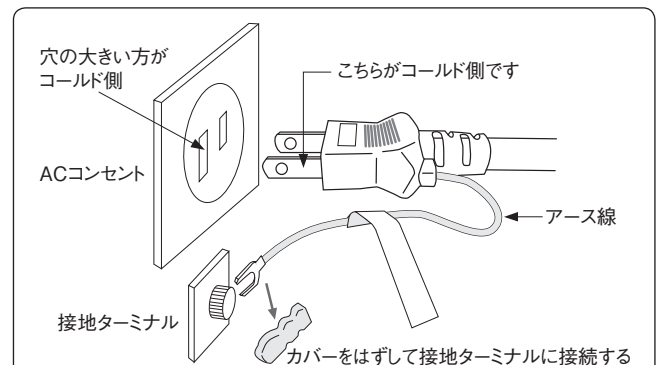
■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



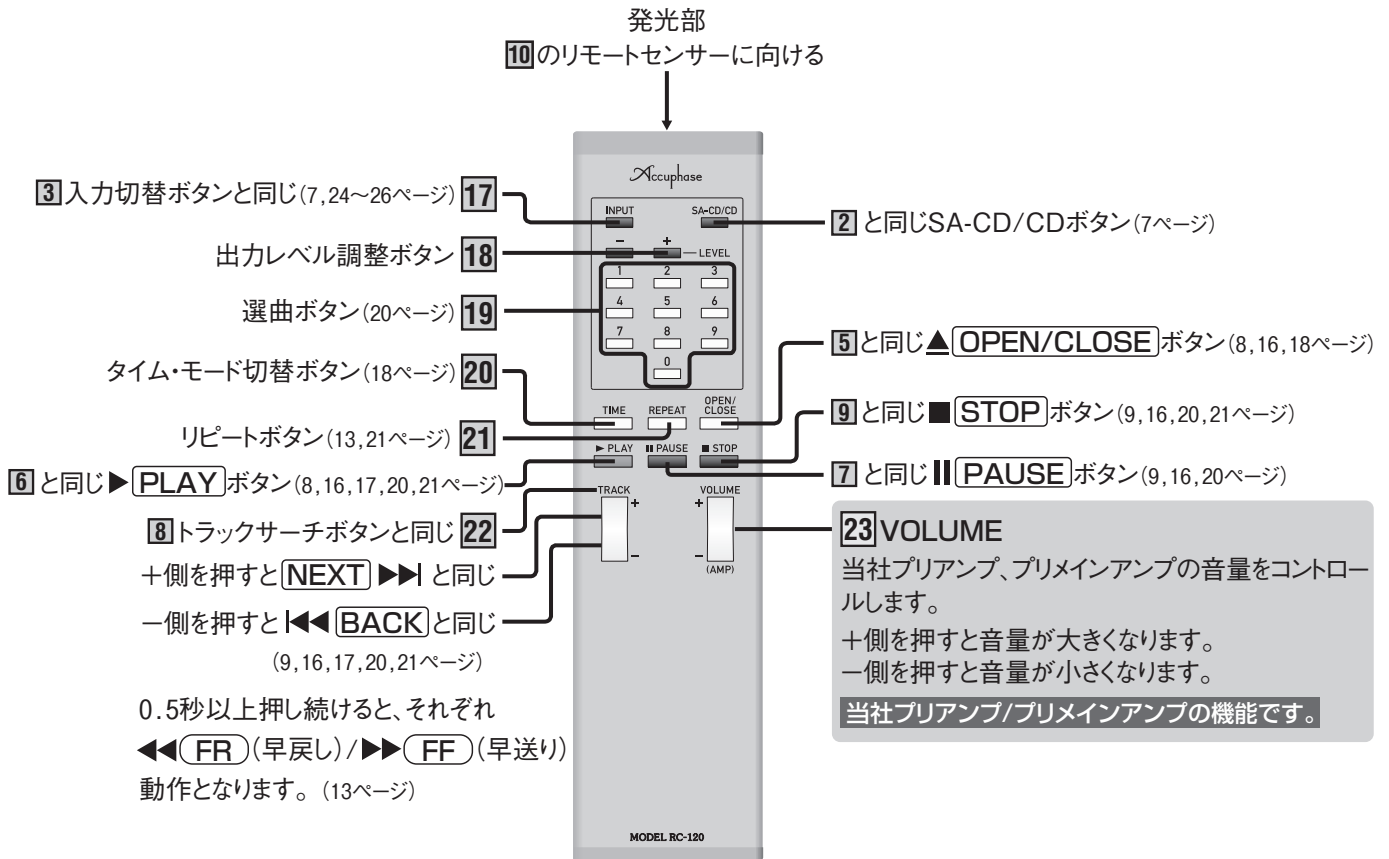
アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。



17 INPUT ボタン — 入力セクター (7, 24~26ページ)

17入力セクターを押してリアパネルの12デジタル入力端子に入力した信号を、選択します。

18 LEVEL (+) (-) ボタン — 出力レベル調整

アナログ出力のレベル調整をします。
デジタル方式により、1dBステップで0dB~-80dBの可変ができます。
出力レベルを絞り切ることはできません。



19 選曲ボタン (20ページ)

トラック(曲)の番号を直接指定して、6▶PLAYを押すと演奏を開始させることができます。STOP(停止)状態、PLAY(演奏)中であっても選曲できますが、6▶PLAYを押さないと演奏しません。

ただしPAUSE(一時停止)中は、トラック指定はできませんが、6▶PLAYを押して確定後ポーズ(一時停止)で待機します。

20 TIME ボタン — タイム・モード切替 (表示例は18ページ)

押すたびに、曲中経過時間、曲中残量時間、トータル演奏時間、トータル残量時間、サンプリング周波数を表示します。

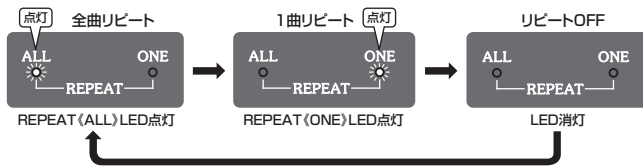


を繰り返し表示します。

データディスクでは 曲中経過時間 ↔ サンプリング周波数 のみの切替えになります。

21 リピート(繰り返し演奏)ボタン (21ページ)

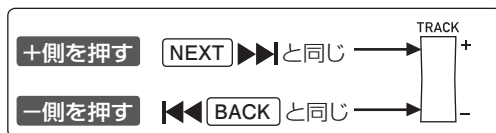
ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。
リピートボタンを押すごとにインジケータのLED点灯/消灯して動作が変わります。



22 TRACKボタン (9, 16, 17, 20, 21ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させ、聴きたい部分を探します。

8トラックサーチボタンと同じ



0.5秒以上押し続けると

◀◀ (FR) (早戻し) / (FF) ▶▶ (早送り)動作となります。

23 VOLUME ボタン — 音量調整

当社プリアンプ/プリメインアンプの機能です。

当社プリアンプ/プリメインアンプにリモコンを向けて、音量をコントロールします。音量の調整についてはプリアンプ/プリメインアンプの取扱説明書を参照してください。

5. リモート・コントロール

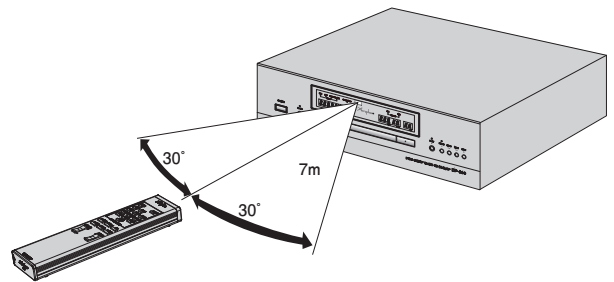
リモート・コマンダーRC-120

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-120を使うと、離れたところからDP-560の機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は12ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の**10**リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

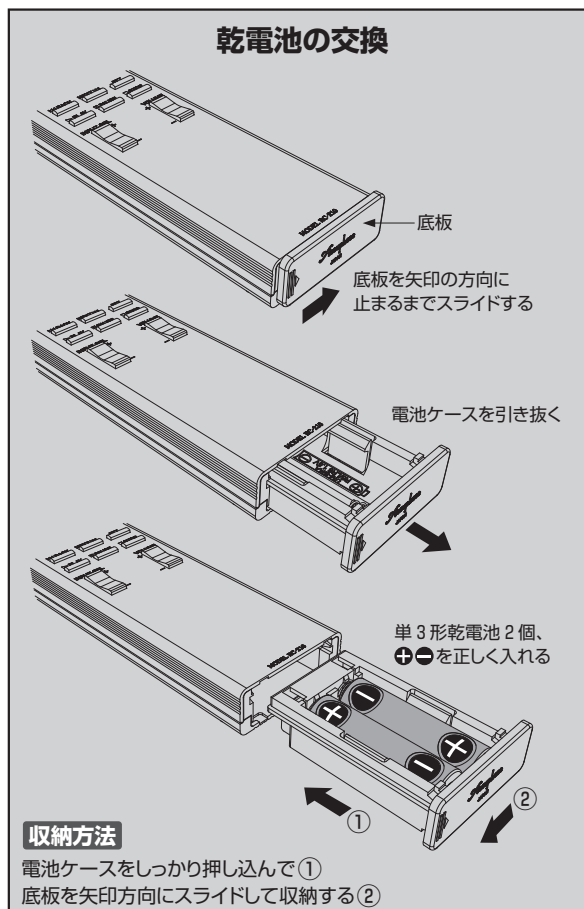


電池について

■電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池と交換してください。

- 使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。
- 電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。



警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

■電池について

- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、 \oplus (プラス)、 \ominus (マイナス)を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■テレビやインバータ照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

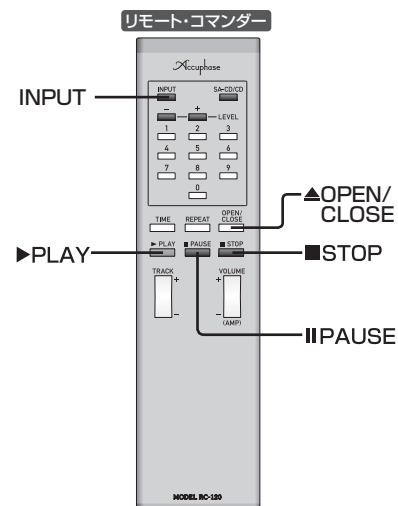
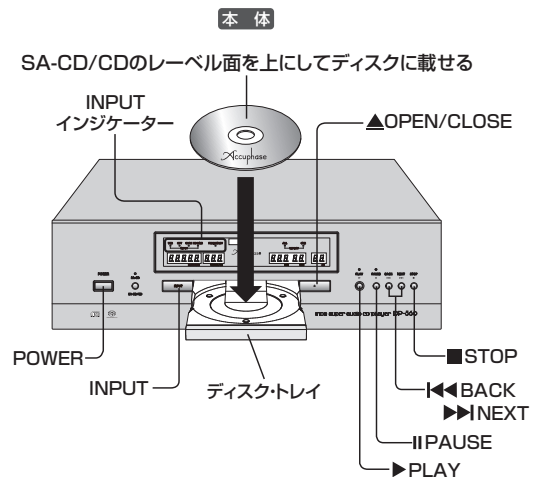
■リモコンを落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

6. ご使用方法

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 INPUTインジケータにHS-LINK, COAXIAL, OPTICAL, USBのLEDが点灯している場合には、表示が消えるまで **INPUT** ボタンを押す。またはリモート・コマンダーRC-120の **INPUT** ボタンで本機のCDトランスポート動作にします。(7ページ参照)
- 3 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをテーブルにのせます。
- 5 ▶ **PLAY** ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最終トラックの演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。



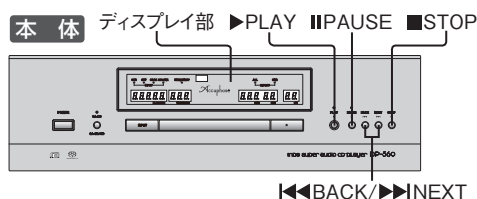
演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) ■ **STOP** ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) || **PAUSE** ボタン [(PAUSE) LED点灯]
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶ **PLAY** ボタンまたは || **PAUSE** ボタン [(PAUSE) LED消灯]
- 1曲先に進む ▶▶ **NEXT** ボタン
- 演奏中の曲の先頭または1曲前に戻る ◀◀ **BACK** ボタン
- ディスクを取り出す ▲ **OPEN/CLOSE** ボタン

機能設定：セッティング・モード

[STOP] ボタンを2秒以上押し、セッティング・モードに入り、「HS-LINKの切替」「電源ON時のプレイ動作」、「自動ポーズの時間」を設定することができます。また、変更した機能を初期設定に戻すことができます。

- セッティング・モードで動作できるのは、本体のボタンのみで、リモート・コマンドのボタンでは動作しません。
- ディスク再生時に設定を行わないでください。

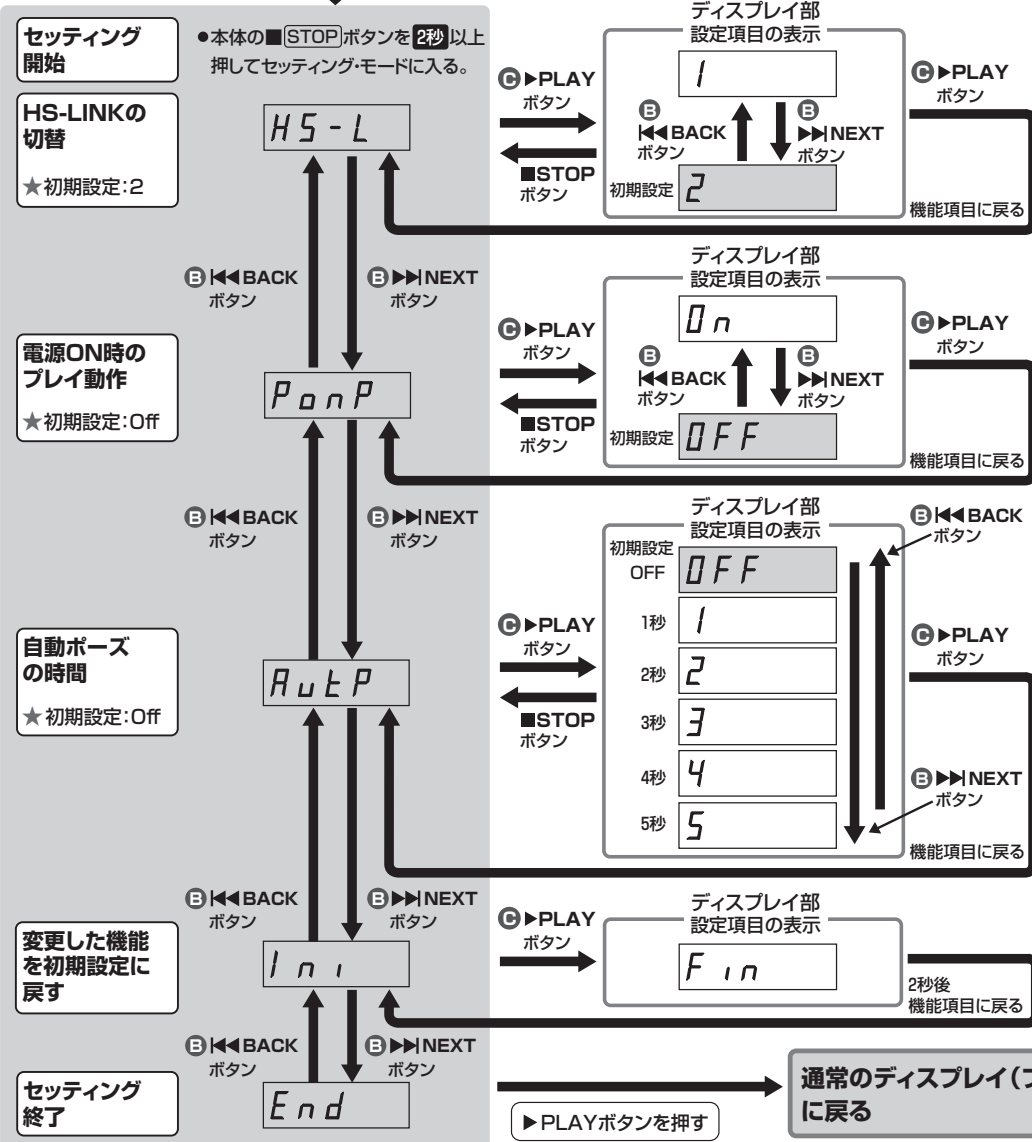


注意 * 各モードの設定途中でキャンセルしたい場合は、[STOP] ボタンを押すと一つ前のモードに戻ります。

11 ディスプレイ部



機能項目の表示



- 1: HS-LINK Ver.1
- 2: HS-LINK Ver.2

HS-LINK Ver.2は、HS-LINK (Ver.1) の上位規格です。HS-LINK Ver.2に対応しない機器もありますので、HS-LINK (Ver.1) およびHS-LINK Ver.2については5ページ参照してください。

ディスクが入った状態で電源を入れたとき

On: 自動的に演奏が始まります
Off: STOP(停止)状態になります

Onの場合、市販のタイマーと組み合わせると、好きな時間に演奏を始めることができます。

スタート時の自動ポーズ時間設定

外部DACなど接続機器のミュート時間が異なり、DP-560の演奏開始と接続機器のロックインする時間に余裕がないと、曲の頭出しで音が途切れてしまいます。これを防ぐため、曲がスタートするときに自動的にポーズする時間を設定することができます。最大5秒まで可能です。

自動ポーズ中に [PLAY] [PAUSE] [STOP] [SA-CD/CD] [OPEN/CLOSE] ボタンを押した場合、自動ポーズ動作はキャンセルされ、押したボタンに対応した動作になります。

* 各項目の設定は [PLAY] ボタンを押して決定・メモリされます。[PLAY] ボタンを押さず、[STOP] で各項目を終了した場合、設定内容の変更は記憶されません。変更前の状態になります。

* セッティング・モード中はその操作に必要なキー ([PLAY], [BACK/NEXT], [STOP]) および [OPEN/CLOSE] 以外のボタン及びリモコン操作はできません。

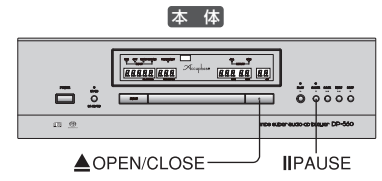
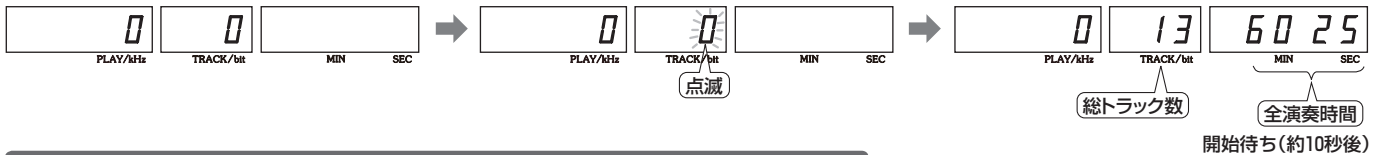
ディスプレイ部の表示例

ディスプレイ部は、ディスクや演奏中の曲に関するいろいろな情報を表示します。
ディスクの演奏中やストップ状態などの状態によって、表示する内容が変化します。

※テキスト情報の表示はできません。

ディスクを入れて、**△** [OPEN/CLOSE] ボタンを押したとき

△ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すとディスク情報を読み込み、総トラック数、全演奏時間を表示後ストップ(停止)状態になります。

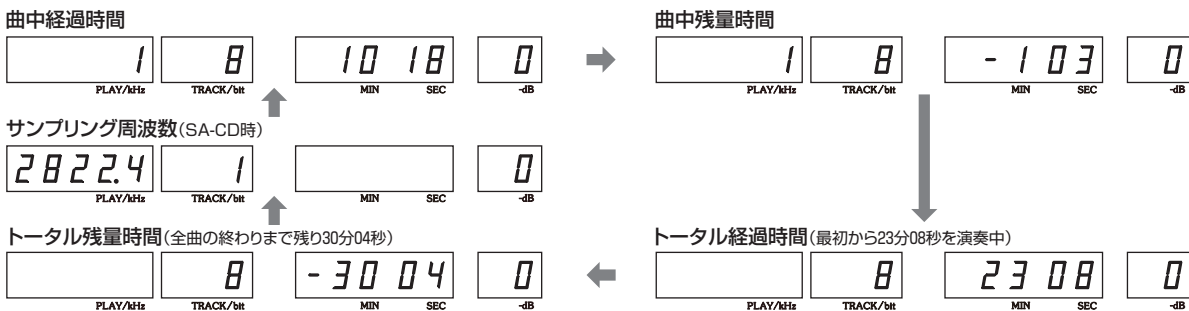


プレイ(演奏)中のディスプレイ

TIME ボタンを押す

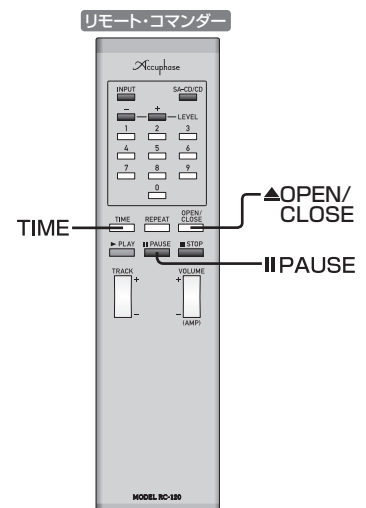
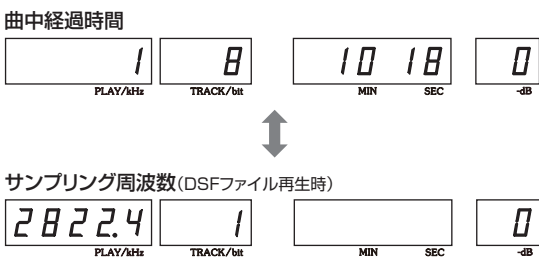
SACD/CDの場合

押すたびに、**曲中経過時間** → **曲中残量時間** → **トータル経過時間** → **トータル残量時間**
→ **サンプリング周波数** を繰り返し表示します。



データディスクの場合

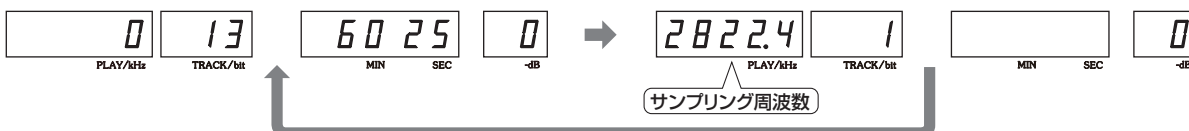
押すたびに、**曲中経過時間** ↔ **サンプリング周波数** を繰り返し表示します。



ストップ(停止)状態でのディスプレイ

TIME ボタンを押す

ディスクの総トラック数/全演奏時間の表示とサンプリング周波数/bit数の表示を切り替えます。



サンプリング周波数の表示例

- 外部入力をロックインしたとき、サンプリング周波数 (kHz) を5秒間表示します。
- リモート・コマンダーの (TIME) ボタンでサンプリング周波数 (kHz) 表示を選択するとFREQUENCYインジケータが点灯し、サンプリング周波数を表示します。
- サンプリング周波数表示を選択中にSA-CD/CD関係のキー操作をすると、ディスク情報等の表示に切り替り、5秒後にサンプリング周波数表示に戻ります。

11 ディスプレイ部



FREQUENCY / サンプリング周波数の表示例

- ロックインした入力の、サンプリング周波数 (kHz) を表示します。

リニアPCM

32.0 44.1
PLAY/kHz PLAY/kHz

48.0 88.2
PLAY/kHz PLAY/kHz

96.0 176.4
PLAY/kHz PLAY/kHz

192.0 352.8
PLAY/kHz PLAY/kHz

384.0
PLAY/kHz

1bit DSD

2822.4
PLAY/kHz

5644.8
PLAY/kHz

11289
PLAY/kHz

BIT / ビット数の表示例

- DACに入力された実際のビット数を1ビット単位で表示します。

リニアPCM

0 データがないとき
TRACK/bit

16 16ビット
TRACK/bit

24 24ビット
TRACK/bit

32 32ビット
TRACK/bit

1bit DSD

1 1ビット
TRACK/bit

*1ビット以外の表示はありません。

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

◎一時停止は

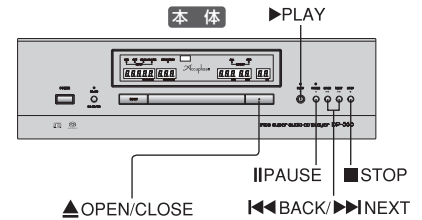
|| [PAUSE] ボタンを押します。《PAUSE》LEDが点灯して演奏は停止します。一時停止を解除するときは、再度|| [PAUSE] ボタンまたは▶ [PLAY] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

◎演奏を止めるには

■ [STOP] ボタンを押します。この場合は、続きの演奏はできません。

◎ディスクを取り出すときは

▲ [OPEN/CLOSE] ボタン(本体、リモート・コマンダー)を押します。



演奏を直ちに開始しないとき

◎ディスクをトレイに載せてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

◎PLAY(演奏)中やSTOP(停止)状態のとき、選曲ボタンと▶ [PLAY] を使うと、指定したトラックの頭から演奏を開始することができます。

トラックの番号を直接押して選曲し▶ [PLAY] を押して演奏します。

- 1 ~ 9 → ▶ [PLAY] 押したボタンのトラック番号から演奏開始
- 1 → 0 → ▶ [PLAY] 10曲目を演奏
- 11曲目以降の演奏は続けて数字ボタンを使用します
例： 15曲目の演奏 …… 1 → 5 → ▶ [PLAY]
30曲目の演奏 …… 3 → 0 → ▶ [PLAY]

※ディスクに入っているトラック数以上の選曲はできません。

※選曲できる総トラック数は、CD：99曲、SACD：255曲までです。

◎演奏中または■ [STOP] 中に、◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択します。

◎PAUSE(一時停止)のとき、◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択し、▶ [PLAY] ボタンを押します。

メモ

- PAUSE(一時停止)中に選曲ボタンと▶ [PLAY] を押すと、押したトラックの頭でポーズ(一時停止)のままになります。
- 総トラック以上のトラックを選曲した場合は最後のトラックを再生します。

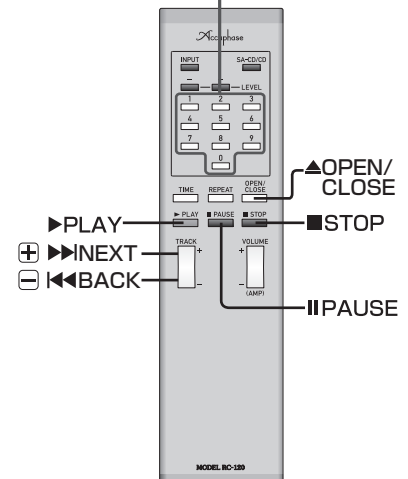
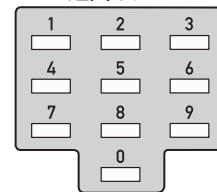
注意

リモートコマンダーで選曲ボタンを押すとトラック番号が点滅し、10秒後にプレイ中の表示に戻ります。

トラック番号(PLAY欄)点滅中にプレイ中の表示に戻すには(0)ボタンを2回押して▶ [PLAY] ボタンを押すか、■ [STOP] ボタンを押します。

リモート・コマンダー

選曲ボタン



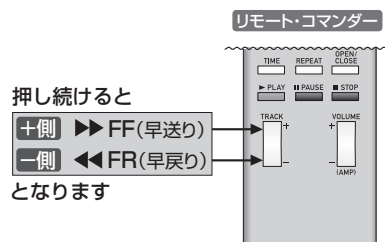
トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す

PLAY(演奏)中に探す

◀◀(BACK)/NEXT▶▶ボタンを押し続けると◀◀(FR)(早戻し)/▶▶(FF)(早送り)となります。

再生音が断続的に聴えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。その部分から演奏を始めます。

メモ STOP中にFF/FR機能は使用できません。
また、トラックをまたいでのFF/FRはできません。



注意

NEXT▶▶ボタンを押し続けて最後の曲の終わりまで進むと、STOP状態になります。

リピート(繰り返し)演奏

ディスク全曲/1曲の繰り返し演奏ができます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

(REPEAT)ボタンを1回押して、▶(PLAY)ボタンを押す。再生中でも可能です。
◀REPEAT ALL▶LEDが点灯し、全曲リピートが始まります。

通常の再生の場合 …………… 全曲を順番に再生

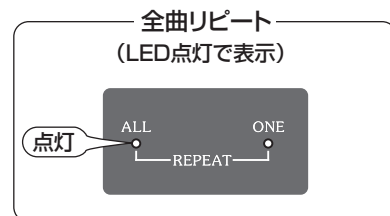
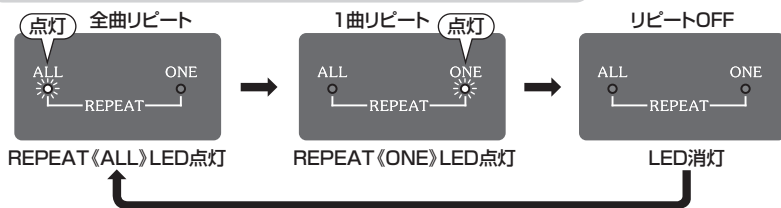
全曲リピートを中断するには…

■(STOP)ボタンを押す。
再び▶(PLAY)ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

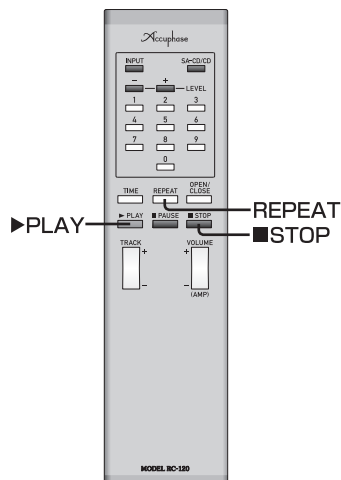
通常の演奏に戻すには…

(REPEAT)ボタンを2回押します。
REPEAT LEDが消灯し、全曲リピートは解除されます。

メモ：押すごとにLEDインジケーターが切り替わります



リモート・コマンダー



ご使用方法

1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

繰り返したいトラックの演奏中に、REPEAT ONE LEDが点灯するまで (REPEAT)ボタンを繰り返し押します。

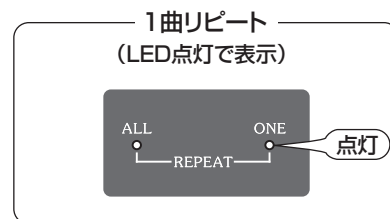
REPEAT (ONE) LEDが点灯すると、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには…

■(STOP)ボタンを押す。
再び繰り返したいトラック演奏を開始すると、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

(REPEAT)ボタンを1回押します。
REPEAT LEDが消灯し、1曲リピートは解除されます。



データディスクの演奏

で使用になるディスクや記録状態により、再生できない場合があります。

ファイナライズされていないディスクは再生できません。

再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	ビット数	再生できるディスクの種類			拡張子
				CD-R CD-RW	DVD-R DVD-RW	DVD+R DVD+RW	
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	16/24ビット	○*1	○	○	.wav
FLAC	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	16/24ビット	○*1	○	○	.flac
DSD	2.8224/5.6448MHz	—	1ビット	—	○	○	.dff/.dsf

*1 この項目は、再生できるファイルのサンプリング周波数が32/44.1/48kHzのみとなります。

再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

最大ファイル数：1,000個

1つのフォルダに含まれる最大ファイル数：2,000個

認識可能フォルダ階層数・8階層まで

- 注意**
- ファイルには必ず拡張子を付けてください。拡張子を付けなかったファイルは再生できません。
 - 個人が録音したものは、個人として楽しむ以外では著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- メモ**
- 本機は、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみを再生できます。
 - インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。
 - 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数は、ファイルおよびフォルダ名の長さやフォルダの階層数などの条件により変わります。

ファイルの再生順番について

音楽ファイルを記録しているフォルダが複数ある場合、本機がメディアを読み取るときに自動的に各フォルダの再生順番を設定します。

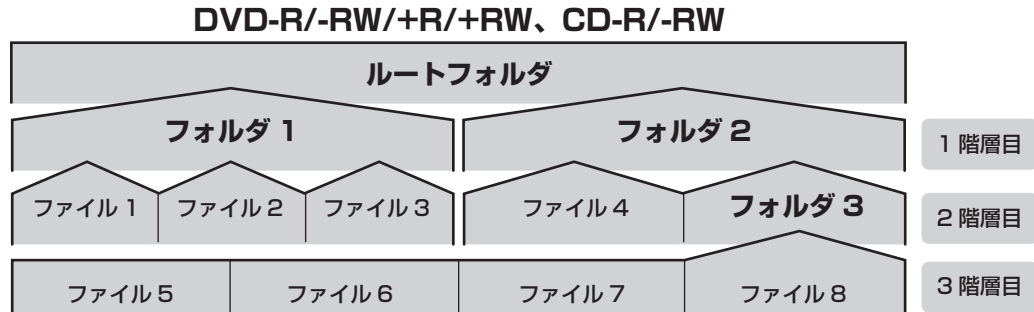
DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録しているファイルは、第一階層の最初のフォルダにあるファイルを再生したあとに、第一階層の別のフォルダ・・・の後に第二階層の最初のフォルダ・・・第三階層のフォルダ・・・の順番に再生します。

- メモ**
- パソコン上で表示される順番と実際に再生する順番が異なる場合があります。
 - DVD-R/-RW/+R/+RWおよびCD-R/-RWのライティングソフトによっては、再生する順番が変わる場合があります。

ファイルの再生順番について

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録された音楽ファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。本機は8階層まで認識できます。



メモ

- 音楽ファイルをCD-R/-RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは「ISO9660」で行なってください。他のフォーマットで記録された場合、正しく再生できないことがあります。詳しくは、ご使用のライティングソフトの説明書をご覧ください。

ファイルの再生順序について

ファイル、フォルダはASCII順(アルファベット順)に並べかえられ、

ルートフォルダ ⇒ 第1階層フォルダ ⇒ 第2階層フォルダ ⇒ ……

と検索して行きます。

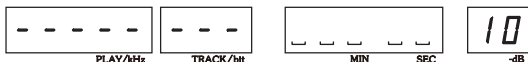
上の図の場合、ルートフォルダにファイルがないので、フォルダ1のファイル1が最初に演奏されます。

結果として

ファイル1 ⇒ ファイル2 ⇒ ファイル3 ⇒ ファイル4 …… ファイル7

の順になります。

- 本機で対応していないファイルを再生しようすると“- - - - -”と点滅表示され、自動的にNEXT時は次の曲/BACKは前の曲にジャンプします。



再生について

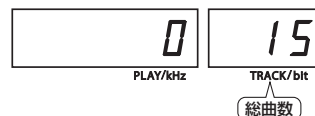
データディスクの再生はスーパーオーディオCDやCDと同様に行えます。ただし、以下の操作はできません。

- リモコンの選曲ボタンおよびフォルダの選択
- SA-CD/CDの切り換え
- 曲中残量時間等の表示
- フォルダごとのリピート再生
- NEXT/BACKは動作しますが、常に次の曲/前の曲の動作になります。
- NEXT/BACK連打による選曲

表示について

停止中は総曲数が表示されます。

(総曲数は音楽ファイルの総数(演奏不可ファイルも含む)を意味します。)



DSDディスク

DSDディスク: 「DSD_DISC」という名前のフォルダにDSFフォーマットのファイルを入れたディスクです。

PCなどで作成したDVD-R/-RW/+R/+RWディスクが再生可能です。

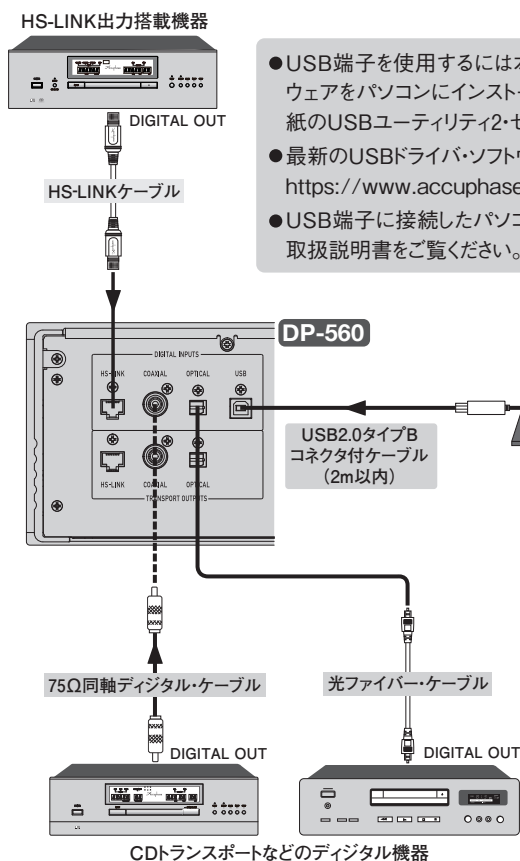
外部機器を接続してデジタル・プロセッサ一部を活用

デジタル信号を入力して演奏する場合

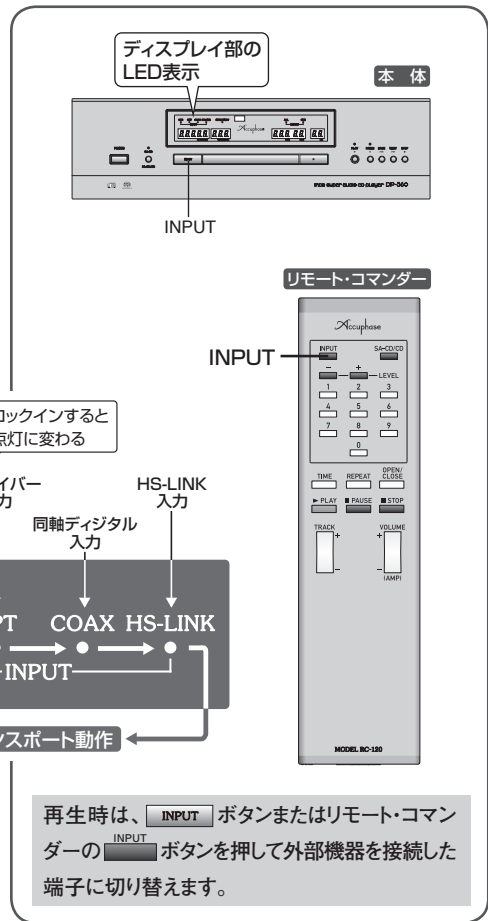
本機にCDプレーヤーなどデジタル機器のデジタル信号を入力すると、高音質な演奏をお楽しみいただけます。

接続例

ソース側デジタル機器の「DIGITAL OUT」 ⇒ 本機の「DIGITAL INPUTS」



- USB端子を使用するには本機に付属するUSBドライバソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。詳しくは別紙のUSBユーティリティ2・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したパソコンの設定や操作方法はパソコンの取扱説明書をご覧ください。



操作手順

- 1 CDトランスポートなど外部機器のデジタル出力端子と本機の「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンで、外部入力機器 (USB、OPTICAL、COAXIAL、HS-LINK) を選択します。
- 4 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

接続ケーブル

USB

USB2.0タイプBコネクタ付ケーブルで接続します。

OPTICAL

JEITA規格の光ファイバーケーブルで接続します。

COAXIAL

ピンプラグ付75Ω同軸デジタルケーブルで接続します。

HS-LINK

HS-LINKケーブルで接続します。

注意

- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く (直径10cm以上) 束ねてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア (芯材) に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時は、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

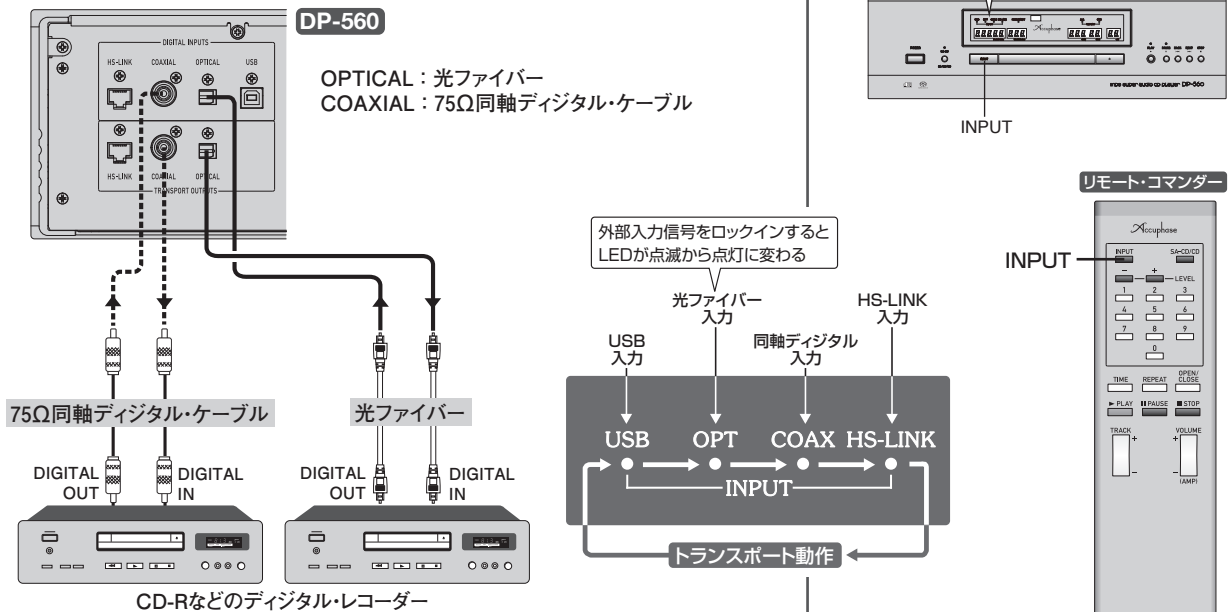
デジタル・レコーダーを接続して、本機からCD録音とレコーダーの再生ができます。

注意

- 「TRANSPORT OUTPUTS」端子には、本機のCDデジタル(トランスポート)信号が出力され録音可能になります。
- INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンでプロセッサ外部入力に切り替えても本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのまま録音可能です。
- SA-CDのデジタル信号は録音できません。

接続例

本機の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL OUT」
本機の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL IN」



再生：プレイバック

INPUT ボタンまたは **INPUT** ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

再生時は、**INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンを押して外部機器を接続した端子に切り替えます。

録音：レコーディング

操作手順

- 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- このデジタル信号が各「TRANSPORT OUTPUTS」端子からレコーダーへ出力されます。
- デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合：44.1kHz)を設定(変換)します。
- レコーダーの録音をスタートすれば、本機のCDトランスポートのデジタル録音ができます。
- 「TRANSPORT OUTPUTS」の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意

録音中にプロセッサ外部入力に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDIにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。

DG-58との接続例

DG-58をデジタルで接続

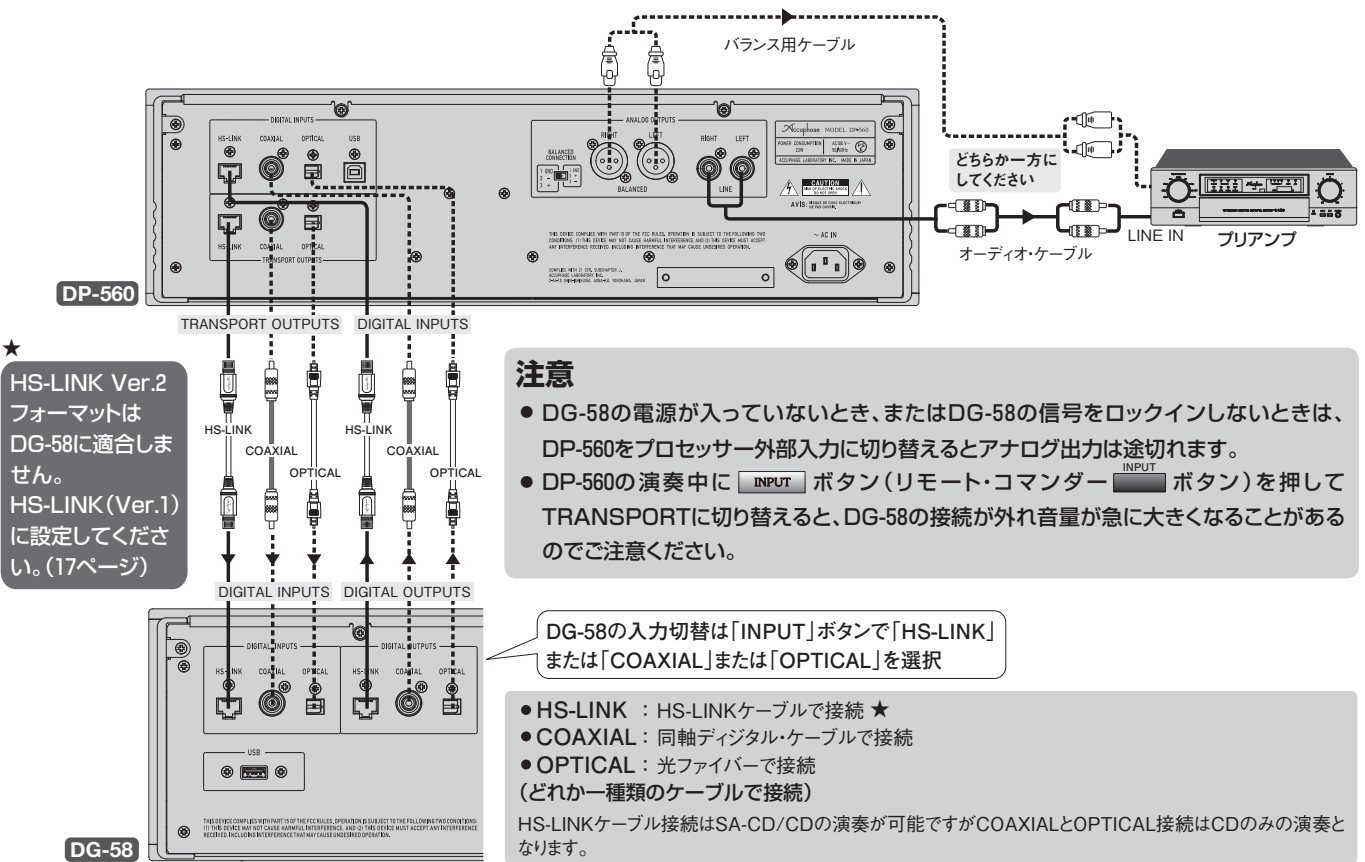
デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-58を接続して、本機のSA-CD/CDのデジタル信号での音場補正が可能になります。

- 詳しい動作・接続方法は、DG-58の取扱説明書を参照してください。

接続例 … DP-560に直接DG-58を接続する場合

HS-LINKケーブルの接続はSA-CD/CDの演奏が可能ですが、COAXIAL(同軸デジタルケーブル)とOPTICAL(光ファイバー)の接続はCDのみの演奏となります。

DP-560の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ DG-58の「DIGITAL INPUTS」
 DP-560の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ DG-58の「DIGITAL OUTPUTS」



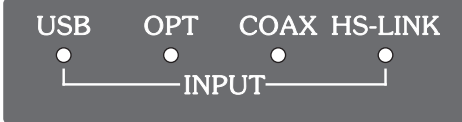
DP-560とDG-58を接続した場合のLED点灯例

INPUT ボタンまたはリモート・コマンダーの INPUT ボタンでDG-58挿入の切り替えをします。

接続例の場合はHS-LINKを選択します。

USB入力 同軸デジタル入力
 光ファイバー入力 HS-LINK入力

外部入力信号をロックインするとLEDが点滅から点灯に変わる

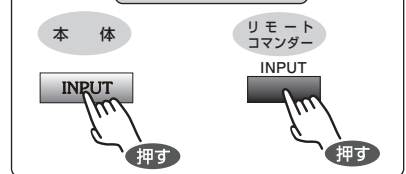


DG-58とUSBの接続はできません。 DG-58と接続した入力を選びます。

DG-58が接続されていない場合、またはロックインしていない(DG-58の電源が入っていない等)場合

☀ LEDが点滅

入力の切り替え



注意 ハイブリッド・ディスクを演奏時にSA-CD/CD切替ボタンを押すと、切り替えの間LEDが点滅してから点灯に変わります。

7. 他機種との接続で使用するケーブル

DP-560と他の機種を接続して、広帯域、広ダイナミック・レンジのSA-CDの演奏を楽しむためには専用の、HS-LINKケーブルが必要です。DP-560を活用するHS-LINKケーブルを用意しています。

HS-LINKケーブル(1.5m) AHDL-15

希望小売価格 20,000円(税別)

HS-LINKインターフェースでデジタル信号を伝送するケーブルです。

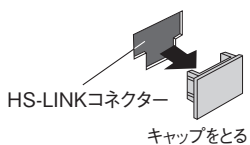
- 三重シールド付ツイストペアー8芯ケーブル



特注品 AHDL-30(3.0m) 希望小売価格 30,000円(税別)もごさいます。

HS-LINKの接続

AHDL-15

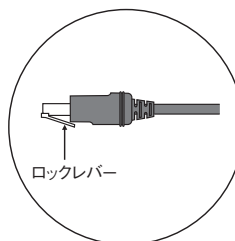
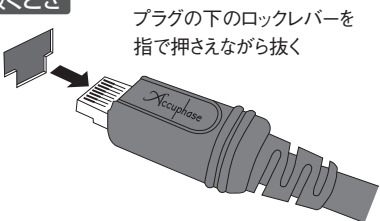


外したキャップは
保管してください

差すとき



抜くとき



8. 保証特性

[保証特性は JEITA 測定法 CP-2402A に準ずる]
[測定用ディスク：PHILIPS 3122-783-00632]

トランスポート部	
適合ディスク	
2チャンネルSuper Audio CD	
CD	
DSDディスク DVD-R/-RW/+R/+RW (DSFファイルフォーマット)	
データディスク CD-R/-RW、DVD-R/-RW/+R/+RW (対応フォーマット：WAV、FLAC、DSF、DSDIFF)	
読み取り方式	
非接触光学式	
レーザー・ダイオード発光波長	
SA-CD用：655nm	
CD用：790nm	
レーザークラス	
クラス1レーザー機器(IEC 60825-1)	
トランスポート出力	
HS-LINK	コネクタ形状：RJ-45 適合ケーブル：HS-LINK専用ケーブル
COAXIAL	フォーマット：IEC 60958準拠
OPTICAL	フォーマット：JEITA CP-1212準拠

デジタル・プロセッサ部	
デジタル入力	
HS-LINK	
コネクタ形状：RJ-45	
適合ケーブル：HS-LINK専用ケーブル	
COAXIAL	
フォーマット：IEC 60958 AES-3準拠	
適合ケーブル：75Ω同軸デジタルケーブル	
OPTICAL	
フォーマット：JEITA CP-1212準拠	
適合ケーブル：JEITA規格光ファイバー	
USB	
フォーマット：USB2.0ハイスピード(480Mbps)準拠	
適合ケーブル：USB2.0ケーブル	

サンプリング周波数	
HS-LINK (*HS-LINK Ver.2のみ対応) 5ページ参照	
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、 192kHz、*352.8kHz、*384kHz (各16~32bit 2ch PCM)	
2.8224MHz、*5.6448MHz (1bit 2ch DSD)	
COAXIAL	
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、 192kHz (各16~24bit 2ch PCM)	
OPTICAL	
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz (各16~24bit 2ch PCM)	
USB	
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、 192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)	
2.8224MHz、5.6448MHz、11.2896MHz (1bit 2ch DSD)	
(11.2896MHz：ASIOのみ)	

D/Aコンバーター	
4MDS+方式	
周波数特性	
0.5~50,000Hz +0、-3.0dB	
全高調波ひずみ率 + 雑音	
0.0006%(20~20,000Hz間)	
S/N	
119dB	
ダイナミックレンジ	
116dB	
チャンネル・セパレーション	
117dB (20~20,000Hz)	
出力電圧・出力インピーダンス	
BALANCED：2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ	
LINE：2.5V 50Ω RCAフォノジャック	
出力レベル・コントロール	
0dB~-80dB (デジタル方式)1dBステップ	
電源	
AC100V 50/60Hz	
消費電力	
18W	
最大外形寸法	
幅465mm × 高さ151mm × 奥行393mm	
質量	
18.8kg	
付属リモート・コマンダー RC-120	
リモコン方式：赤外線パルス方式	
電源：単3形乾電池2個使用	
最大外形寸法：50mm×192.5mm×20.5mm	
質量：215g(電池含む)	

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権について

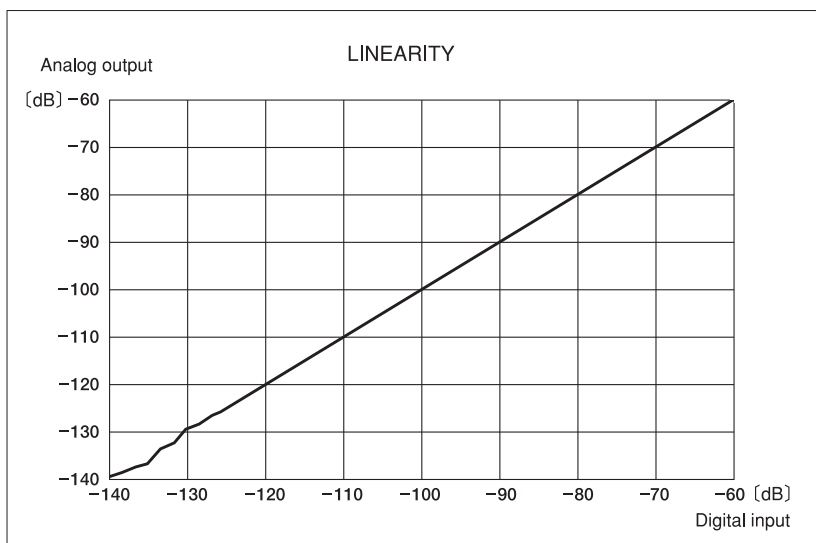
放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

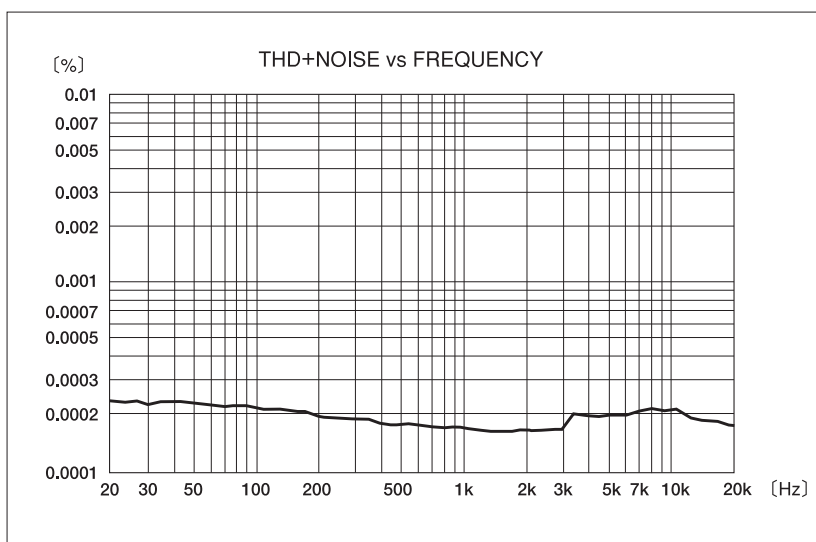
他機種との接続で
使用するケーブル

保証特性

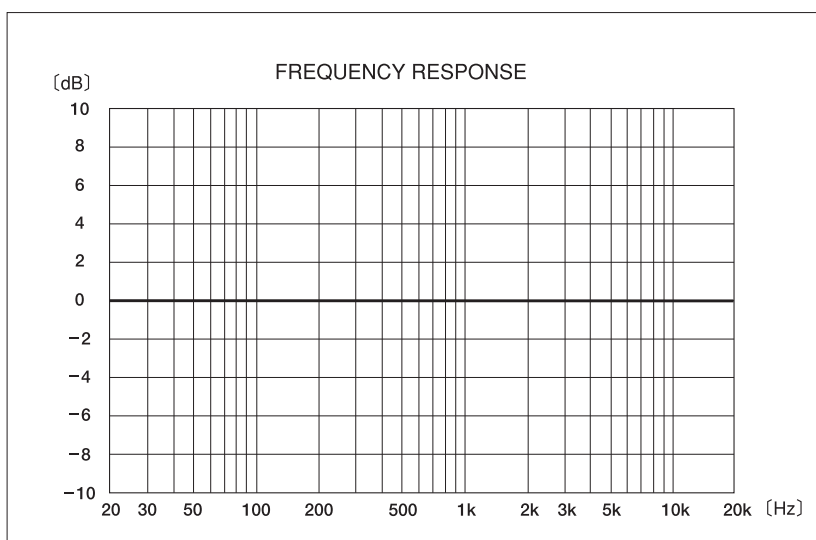
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

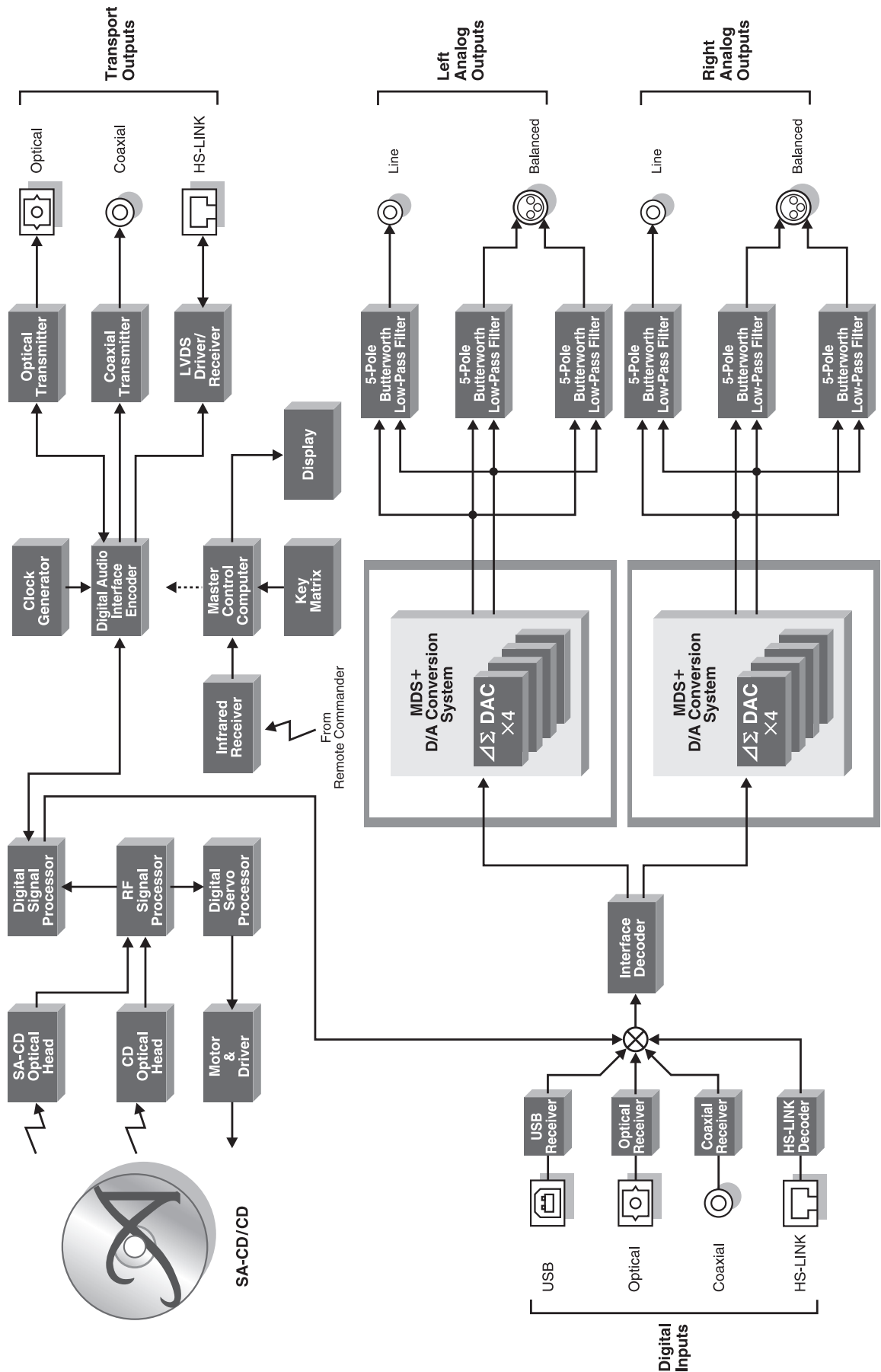


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



特性グラフィック
ブロック・ダイアグラム

11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

! **注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
- プラグ、コンセントをチェックします。
- 電源コードが傷んでいませんか。…………… 傷んでいる場合は危険ですから、当社品質保証部へお問い合わせください。

電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる

- 電源ON時のプレイ動作設定がされています。(17ページ参照)

プロセッサー側で周波数ロックしない

- HS-LINK、COAXIAL(同軸)、OPTICAL(光ファイバー)、USB、それぞれ接続するケーブルをお確かめください。
- プロセッサー側で入力した端子を選択してください。
- COAXIAL(同軸)、OPTICAL(光ファイバー)ではSA-CD信号を出力できません。HS-LINK出力をご使用ください。

演奏が始まらない

- ディスクが正常に装着されていますか?(2ページ参照)
- 結露していませんか?(3ページ参照)
- 本機で演奏できるディスクですか?(5ページ参照)
- **3** INPUT入力切替えボタンで外部入力を選んでいませんか。(7, 24ページ参照)

音がでない。またはレベルが低い

- プロセッサー側で周波数ロックはされていますか。
- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
- プロセッサー側の出力レベルを確認します。(12ページ参照)

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

- ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。

曲の先頭が切れる

- トラック先頭部分に無音が殆どない曲を演奏した場合、デジタル接続機器側がロックインするまでの時間により起こることがあります。自動ポーズの時間を設定してください。(17ページ参照)

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。
- 電池ケースの接点は汚れていませんか。

12. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から3年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

注意 保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況：できるだけ詳しく

- * 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>